棚田オーナー制度で
美しい「稲渕の棚田」を未来につなぐ

令和8年1月

～ 特定非営利活動法人 明日香の未来を創る会 ～（明日香村）

美しい棚田を守るために

稲渕の棚田の起源は15世紀にまで遡るとされ、数百年に渡って米づくりが継承されてきましたが、時代とともに農業の担い手が減少し、荒廃農地が目立ってきました。

そこで棚田の保全を目的として、1995年に地元住民が「棚田ルネッサンス実行委員会」を設立し、同年から棚田オーナー制度を導入。都市部から人を呼び込み、協働で棚田を守る活動を開始しました。

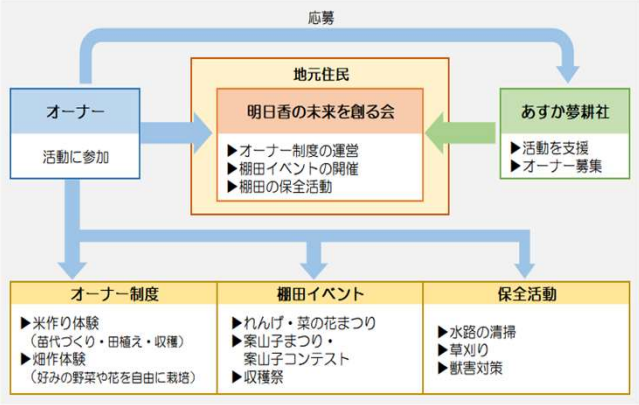
2010年には、活動の更なる発展を目指して法人化し、30年目を迎えた現在も、奈良県内外から多くのオーナー（105組）が訪れ、都市と農村の交流を続けています。

棚田オーナーによる田植え風景

都市住民との協働で日本の原風景を未来へ

棚田オーナー制度では、日本の棚田百選にも選ばれた稲渕の棚田で四季折々の自然に触れながら米づくりや野菜づくりを体験できます。

オーナーは、地元のインストラクターから指導を受けて苗代づくりから収穫までを体験するコースや、里山の景観保全を寄付金で支援して稲刈り等にも参加できるコース、自分の区画で好みの野菜や花を栽培するコースを選択し、棚田を守る活動をしています。



ジャンボ案山子設置の様子
デザインは毎年変更

収穫祭の様子

また、一年を通じて様々なイベントを開催しており、４月のオーナーと地元住民との交流を図る「レンゲ祭り」を皮切りに、７月には稲渕の棚田のシンボルであるジャンボ案山子の設置。９月には棚田内の道沿いに立てられた案山子の出来栄えを競う「案山子コンテスト」を中心としたお祭りを開催。それぞれが都市と農村を結ぶ大切なイベントになっています。

そして11月には「収穫祭」を開催し、一年を振り返りながらオーナーとの親睦を深めます。

活動を続けていくために

近年、稲渕の棚田でもイノシシやシカによる被害に悩まされていますが、オーナーや地元住民の「棚田を守りたい」という熱い想いによって米づくりなどが続けられています。

棚田の保全活動を続けていくには、獣害対策に取り組むことが不可欠となっており、皆が笑顔で収穫の日を迎えられるよう、棚田をトタン板などで囲む対策をしています。

獣害対策でトタン板などを設置

【問合せ先】特定非営利活動法人 明日香の未来を創る会
https://www.asukamirai.org（外部リンク）